令和７年度　授業力向上に向けた指導の重点

どの子も主役の「楽しくて力の付く授業」に向けて

その時間に越えさせたいハードル（評価規準）が明確で具体的であるということがとても大切です！

（１）「具体的な評価規準」を踏まえた個に応じた指導の充実

Step 1 クラスの児童・生徒を**具体的に１人思い浮かべ**、どこでつまずくかを想定しましょう。

Step 2 どうしてつまずくのか、**「なぜ」を数回繰り返し**、困りの**要因を深掘**りしましょう。

Point！

「(**どんな困りの要因を持った**)児童生徒に、(**こんなことをする**)ことで、(**何ができる**)ようにする。」

（例）

「(**複数の構成要素を整理して考えることが難しい**)児童には、(**着目する構成要素を一つに絞らせたり、キーワードを黒板に位置づけ焦点化させたりする**)ことで、(**一つずつ説明することができる**)ようにする。」

（例１：小２算「さんかくやしかくの形をしらべよう」より）

（２）成果を実感できる視点の明確な「振り返り」の徹底

Step 1 子どもからどんな振り返りが出れば良いか、**子どもの言葉で設定**しましょう。

Step 2 「～がわかった、～ができた＋**プラス１(理由や工夫)**」で振り返らせましょう。

Point！

「どうして？どんな？」など、**「How」の要素を盛り込んだ振り返りの視点**を設定する。

（例）

「友だちに説明するときに、気を付けたことや**どんな**工夫をしたか書いてみよう。」

より詳しい説明については、右の二次元コードから参照ください。
令和６年度第１回地域授業改善協議会に係るWeb研修動画
※OENシステムへのログインが必要です。

どの子も主役の「楽しくて力の付く授業」づくり

中津教育事務所

1. 単元計画を立てよう👆

○ 単元計画を立てることで・・・

- つけたい力が明確になり、効率的な指導につながる
→ 教師が教える場面と子どもが考える場面が明確になる
- 前時、本時、次時など1時間ごとの「つながり」が生まれ、単元で力を育める
- 子どもの実態に応じて、現在地と単元ゴールまでの見通しを共有できる
- 授業は生モノ。子どもの実態に応じて柔軟に進度を調整できる

○ そのために・・・

- **授業づくりのファーストステップ**

👆 学習指導要領解説で「学年の目標」と「指導内容（指導事項）」を確認する
→ 系統性や指導のポイント、目標の達成に必要な力を把握する
- 指導と評価の一体化を参考に、単元の評価規準（観点別）を立てる
※巻末資料の観点別（知技、思判表、主学態）の具体例を参考にする

2. 評価規準を具体化しよう👆

○ 評価規準を具体的に描くことで・・・

- 途中の指導に必要な視点が明確になる
- ねらいに対する子どものハードルが明確になり個に応じた手立てが充実する
- 振り返りの視点が明確になり、学びの成果の実感と次への意欲につながる

○ そのために・・・

①「概ね満足と判断する状況（B評価）」を具体的な子どもの言葉で描いてみましょう
② 評価規準に学びの手掛かりとなる言葉を盛り込んでみましょう
例えば・・・
〔「まとめ」や「振り返り」で使って欲しい言葉、学び方　など　〕

3. どの子（個）も「できた」を実感できる個に応じた手立てを充実させよう👆

○ そのために・・・

- 具体化された評価規準をたよりに、手立てを探る
- だれが、どこでつまずき、どんな困りを抱えるのか予測し、必要な手立てを必要とする子へ！

4. 指導案（略案）に落とし込んでみよう👆

2年1組	指導者		教科等	小学校　算数
単元	単元名等	さんかくやしかくの形をしらべよう（長方形と正方形）		
	単元の目標	辺や頂点など図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えているとともに、身の回りにあるものの形を図形として捉えることができるようにする。		
	単元を通した主な学習活動と指導上の工夫	○既習の知識・技能を用いて図形を弁別したり、特徴を見出したり、図形を描いたりする活動を、単元を通して取り入れる。 →辺や頂点の数などの構成要素に着目させ、図形の意味や性質について伝え合う場を工夫する。		
本時（本時3／全11時間）	本時のねらい	A：三角形や四角形の分け方について、 B：図形の構成要素に着目して分類することにより、 C：説明することができるようにする。		
	本時の評価規準【観点】	辺や頂点の数などの構成要素に着目し、様々な図形の中から三角形と四角形を見つけ出し、見分けた理由を説明している。　観点【 知・技 ／（思・判・表）／ 主学態 】		
	本時	【めあて】 形の見つけかたについてお話しよう。		
		【課題】三角形や四角形を見つけるにはどこに気をつければよいだろうか。		
		・様々な図形を分けてその理由を考えさせる。※図形（四角と四角形、三角と三角形など） ・分け方とその理由について話し合わせる。 ・全体で図形の分け方について確認し、構成要素をもとに説明させる。 【個】複数の構成要素を整理して考えることが難しい児童には、着目する構成要素を一つに絞らせたり、キーワードを黒板に位置づけ焦点化させたりすることにより、一つずつ説明することができるようにする。		
		【まとめ】へんやちょう点の数に気をつければよい。		
		振り返りの視点：どんなことばをつかって、形のみつけかたのお話ができたかな？ 【振り返り】 へんやちょう点など大切なことばを使ってお話することができた。○○ちゃんのお話は、たとえがあってわかりやすかった。次は○○ちゃんのまねをしようと思った。		

3点のつながり

観点の連動

3つの観点別の単元目標のうち、本時で見取る観点の単元目標のみの記載とする
（例）本時の見取「知・技」 → 単元の「知・技」の目標を記載する

学習指導要領解説の「学年の目標」を参考に！

上記の観点の単元の目標を達成するために、単元の展開における主な学習活動と指導上の工夫を教師の立場で記載する
○（単元の主な学習活動について）
→（その活動の指導上の工夫）

付けたい力（資質能力）を、どんな活動を軸（メイン）に添えて学習させるかを明確に！

A：本時の学習内容　（～について、～を、）　※A とCをつなげて読めば本時で何を学ぶかがわかる
B：学習活動　（～を通して、～することにより）
C：本時のつけたい力　（～することができるようにする。～するようにする。など）

・ねらいに対して「概ね満足と判断する状況（B 評価）」を具体的な児童生徒の姿を想定し、記載する　（～している）
・本時で見取る観点【 知・技 / 思・判・表 / 主学態 】を○で囲む

・「本時の評価規準」へ向かう「めあて」となっているか
・「本時の評価規準」の達成や達成に向けた学習の道のりを振り返られる「振り返り」となっているか

「評価規準」と「めあて」と「振り返り」の3点のつながりの確認を！

【個】「どの子（個）」も大切にする授業へ（個に応じた手立ての充実）
・どんな困りの**要因**を抱えた児童・生徒へ
どのような手立てを（支援を）行うことで
どんな姿になるのかを具体的に想定する

・迷った時は「評価規準」に立ち戻る
・焦点化（言葉や学び方）

・「めあて」と本時の評価規準を踏まえて、「振り返りの視点」を置くことで、振り返りが明確になる
・「子どもの言葉」で、クラスの子どもを想定して書くことで、授業のねじれや抜けが浮き彫りとなり、子どもの思考に沿った構想となる

※令和６年度 第１回地域授業改善協議会に係るWeb研修動画より